「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
（当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください）

	--平成 30 年　8 月　15 日
所属部局・職	公益財団法人日本モンキーセンター附属動物園部・飼育係
氏　名	阿野　隆平

１．派遣国・場所（○○国、○○地域）

東京都、東京国際フォーラム

２．研究課題名（○○の調査、および○○での実験）

丸の内キッズジャンボリー2018 への参加

３．派遣期間（本邦出発から帰国まで）

平成 30 年 8 月 15 日～平成 30 年 8 月 15 日（1 日間）

４．主な受入機関及び受入研究者（○○大学○○研究所、○○博士／○○動物園、キュレーター、○○氏）

東京国際フォーラム

５．所期の目的の遂行状況及び成果（研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由）

写真（必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの）の説明は、個々の写真の直下に入れること。
別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

東京国際フォーラムで開催されていた丸の内キッズジャンボリーに参加をした。JMC から出展したブースを主に担当していた。ブースには、ゴリラ・チンパンジー・ヒトの頭骨標本、ワオキツネザルなどの毛皮、種名を当てるパネル、コモンマーモセットとクチヒゲグエノンの剥製などを展示していた。JMC でガイドをおこなうときは、基本的に生体を来園者と観察しつつ説明をするということが多く、今回のようなブースでの説明は経験が少なく戸惑うこともあった。しかし、ブースでのガイドは来場者にのみ意識を向けて説明ができるので、普段のガイドとは違う感覚となり良い勉強となった。ブースの展示物を通して、動物や動物園のことを来場者にもっと知ってもらえたらという思いで説明をしており、来場者側からの質問が出やすいような説明を心がけていた。展示していた毛皮や頭骨標本に対して「怖い」という子どももいたが、こちらから「どうしてこの骨のここはこうなっているのだろう？」などの「疑問」を一緒に作ってあげると触れて確かめ、考えるようになった。JMC でおこなっているガイドでは触れることができないので「触れる」ということが子どもたちの想像力を大きくするのだと実感した。「きて、みて、さわって動物はかせになろう！」の会場全体でのスタンプラリーが来場者に「学ぶ」という雰囲気にさせているのか、滞在している時間が長く、各ブースでの説明を熱心に聞いている印象をもった。教育効果の高さが感じられた。
来場者からの質問は様々で、中には私が思いつかないようなことを疑問に持つ方もおり、考え方の違いのおもしろさを改めて感じることができる場となった。
このような機会を与えてくださった松沢所長をはじめ、今回お世話になったすべての皆様に感謝申し上げます。

京都造形大学　齋藤亜矢先生　講演

会場写真①

会場写真②

６．その他（特記事項など）